一般社団法人 神奈川県作業療法士会
2010年5月

神奈川県作業療法士会ニュース No.143

一般社団法人　神奈川県作業療法士会ニュース143号　目次

1 巻頭言「リニューアル！県士会広報部」
2 総会　報告
3 特別講演会　報告
4 5 新連載　「OTのためのIT講座」
6 7 学術部からのお知らせ
8 ひよこ通信
9 パイロット事業のお知らせ
10 各部からの報告
11 理事会抄録
12 講習会案内
13 求人広告
14 ここへ行ってきた

リニューアル！県士会広報部

ニュース紙面がリニューアルしました！新しい紙面のトップを飾って、新生広報部の今後の活動予定を会員の皆様にご報告したいと思います。写真の３名の理事・班長からメッセージをお送りします。

■広報部理事　野本義則

神奈川県作業療法士会広報部の仕事を大まかにいえば、県士会員に対して有益な情報を提供することと、神奈川県民に対して、作業療法、作業療法士、そして県士会活動をお知らせすることです。様々な広報活動の方法がある中で、このニュースは会員の皆さんに対し県士会から「お伝えしたい、お伝えしなければならない」情報をお届けする重要な媒体であると自負しております。今回の紙面一新を期に、会員の皆様にはますます県士会の活動に興味関心を抱いていただき、一般市民に対して作業療法を広く啓発する一助になればと願っております。協会の香山広報部担当理事の言葉を拝借すれば「会員一人ひとりが広報マン」となれるように、広報部一丸となって努力していきます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

■ニュース編集班長　松本政悦

本紙を手に取って、読んでいただいている会員の皆様！新しい紙面はいかがでしょう？ニュース編集班では、美しく読みやすい紙面を目指して、さらなる改良に取り組んでいきます。また今号から各会員にニュースを一部ずつ郵送するシステムに変更し、早く確実に皆様のお手元に届くようにしています。紙面のみでなく、記事の内容もこれまでに増して充実させていこうと計画しています。これまでのニュース編集班員の個性あふれる取材記事に加え、会員の業務に直接役立つ情報も掲載していきたいと考えています。その一環として、今号から「OTのためのIT講座」を連載開始しました。この記事は、IT業界で活躍している講師を迎えて、業務で役立つIT関連の技術情報をわかりやすく紹介していこうという企画です。ぜひご覧ください。

ニュース編集班では、共にニュース編集に携わっていただける意欲あふれる会員を募集しています。ニュース編集を通して分野を超えたOTのつながりが広がりますし、取材を通してさまざまな知見も深まりますよ！

お問い合わせは事務局までおねがいします。

■対外広報班長　酒井由香里

会員の皆様こんにちは（^-^）昨年度からリニューアルした対外広報班です！「ニュース班」が県内会員へ向けた有益情報の広報であるならば「対外広報班」は県内会員外の方や団体に「作業療法」を知って頂く為の広報活動をする部門です。今年度より、私達は３つの広報対象へ向けた広報活動を行う予定です。①今、作業療法が必要な方・団体⇒まだまだ作業療法が充分に普及していない領域（地域・終末期等）に関わる職能団体へ作業療法を伝えます。②これから作業療法が必要な方（団塊の世代？）③これからの作業療法を担う方（学生等）です。

どれも広報で大切な方だと思っています…。なにより私達が働きやすくなると思いませんか？県士会員として、「会員一人ひとりが広報マン」の地道かつ確実な広報と、私達広報部の活動で「作業療法」の職能団体を盛りたてていきましょう！皆様のアドバイス・ご意見も頂ければ幸いです。今後とも宜しくお願いいたします。

総会報告

平成22年４月18日（日）午後14時45分より、神奈川県総合医療会館７階大講堂において、第２回一般社団法人神奈川県作業療法士会定期総会が開催されました。その模様をお伝えします。

佐藤副会長の開会の辞のあと、総会出席者より議長団を選出し、下記の通り選任されました。続いて渡邊会長挨拶のあと、議事運営委員より、現会員数1,467名の報告と総会出席者が99名、委任状提出者が492名で計591名となり総会開会の定足数、正会員の１／３以上を満たし、総会成立の宣言がありました。その後、第１号議案「2009年度事業報告」、第２号議案「2009年度決算報告ならびに監査報告」、第３号議案「2010年度事業計画（案）」、第４号議案「2010年度予算（案）」について審議され、質疑後の採決で、すべて賛成多数にて可決、承認されました。

以下、質疑の内容をお伝えします。

まず、第１号・第２号議案について山本氏（自宅会員）より「補正予算について、大きな修正のあった部分がある。説明してほしい」とのご指摘があり、①法人設立記念祝賀会（財務部）、②プロジェクターの購入（学術部）、③PCの購入（ウェブサイト管理委員会）と各部から説明がありました。また「各部の部員が年度の途中で追加承認される理由」について質疑があり、渡邊会長より「現状として、部員になって下さる方が少なく、事業が明確化されたところで承認している状態。その都度業務執行の上で必要な人数を承認している。引き続きご協力をお願いしたい」との説明がありました。また、第３号・第４号議案の質疑では、山根氏（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校）より「OT体験デーの開催日が８月から９月に変更になる理由は？多くの対象となる高校生は、進路決定時期を考えると、９月より８月の方が適切ではないか」とのご指摘があり、広報部より「OTの日がOT協会により９月25日に制定されたこともあり、その日に合わせてイベントを行う方向。この日は、高校生だけではなく、広く一般の方も対象に作業療法の啓発を行う予定。学生に向けた啓発活動については、別の事業にて体験デーよりも早い時期に行うことを検討中」との説明がありました。また山本氏（自宅会員）より、「平成21年度の予算と比較し、大きく増加している部・委員会の内容説明を」とご指摘があり、それぞれ、①教育部「会議を増やし、部員全体で委員会の事業を進めるため」、②広報部「今年度より県士会ニュースを個人宛てに発送するため。また消耗品増は啓発グッズの作成予定のため」、③地域リハビリテーション部「今まで少ない部員で事業を行ってきたが負担が大きいため、部員を増やし、より事業をすすめるため」、④社会保障制度対策委員会「部員を増やし、事業をすすめるため」と各部より説明がありました。最後に、小川氏（横浜YMCA学院専門学校）より「平成21年度の決算と平成22年度の予算を比較すると会費収入が減少しているのは何故か」とのご指摘があり、財務部より「平成21年度の会費納入率は86.13％だったが、これはコンビニ振込や研修会での会費徴収を導入した効果かもしれないが現時点では詳細不明、今後分析していく必要があり、従って平成22年度は80％の納入率で予算案を計上した」との説明がありました。

以上、活発な議論があり、自分達も組織作りの一員であることを自覚できる良い総会でした！

総会役員（敬称略）の皆様たいへんお疲れ様でした！

議長　金山　桂（横浜YMCA学院専門学校）
副議長　三川年正（横浜リハビリテーション専門学校）
書記　芳村紘恵（横浜相原病院）
　　　赤塩千沙都（横浜相原病院）
議事運営委員　福留大輔（新戸塚病院）
　　　　　　　杉田雄大（屏風ヶ浦病院）
議事録署名人　湯沢大輔（麻生リハビリ総合病院）
　　　　　　　太田裕也（麻生リハビリ総合病院）

特別講演会開催報告

前ページでご報告した、第２回一般社団法人神奈川県作業療法士会定期総会に合わせて、同会場に２名の作業療法士の講師をお招きし、特別講演が開かれました。お二人とも著名な作業療法士であり、豪華な特別講演会となりました。

お一人目は山口県の夢のみずうみ村代表　藤原茂先生です。演題は「チャレンジ！作業療法の可能性　～活き活きとした生活を支援する～」でした。藤原先生は先日、NHK総合テレビ「プロフェッショナル　仕事の流儀」に出演され話題になりました。先生は日本の作業療法の多くが「機能訓練漬け」になっている現状をきびしく批判し、OTは患者さまが豊かな生活と人生をおくることを支援できる唯一の医療職である、と力強く宣言されました。障がいを負いながらも楽しく活き活きと生活されている方々をスライドで紹介され、たとえ発症直後の意識レベルが低下している段階であっても、OTはこのような患者さまの将来像を急性期から想像できなければならないと話されました。患者さまが豊かな人生を実現し「夢のまたゆめ」に近づくことを支援するのがOTであり、大切なのは医学的な「知識」ではなくOTとしての「意志」であることを力説されました。ご自分の作業療法観を熱く熱く熱く話される先生の迫力に圧倒されるとともに、OTの原点を示していただいた気がしました。最後に先生は、この講演は「みなさん（聴講者）に対する作業療法です」、とも話されました。先生の生き方そのものが、先生に関わるすべての人にとっての作業療法である、と思いました。

お二人目は、日本作業療法士協会会長　中村春基先生です。演題は「作業療法５カ年戦略～地域生活を支える作業療法～」でした。

はじめに中村会長が取り組んでこられた、地域生活支援の成果について、多くの患者さまの充実した生活ぶりがスライドで紹介されました。重度の脳性マヒの方とのドイツ旅行、片麻痺の患者さまが絵の個展を開いたり、卓球を楽しむ様子、頚椎損傷の方が自分で食事される様子など、どれも中村会長の技術と優しさが、対象者の充実した生活につながっている事例ばかりでした。「生活はOTが責任を持つ」、「患者さんが'あれもしたい、これもしたい'とわがままを言うようになったらOTの勝利。それを実現させるにどうするか考えるプロセスがOTの作業」と話されていました。

後半は作業療法５カ年戦略について、分かりやすく説明していただきました。作業療法が社会に対して貢献していくためには、個々のOTが臨床を通して仕事をするのみではなく、法律の改正なども視野に入れた、政治に働きかけるレベルの取り組みも重要であることを再認識させられました。この後、会員からの質問にも丁寧にお答えしていただきました。

総会と特別講演終了後に、中村会長と、県士会理事・役員、会員約80名が参加して懇親会が行われました。元県士会会長の長谷川先生の発声で乾杯が行われ、参加者の方々と楽しいひと時を過ごしました。

中村会長は積極的に各テーブルを回られ、会員と情報交換されていましたが、偶然にもこの日がお誕生日に重なっており、参加者全員でハッピーバースデーを合唱し、お祝いしました。

最後に、中村会長からのメールをご紹介いたします。

「大変お世話になりました。士会の皆様と直接お話ができて、有意義な機会となりました。世界大会の準備等でもお世話になりますが、今後とも宜しくお願いします。また、誕生日まで祝って頂いて、大変恐縮しております。一生の思い出となりました。渡邊会長はじめ、貴会の益々のご発展を祈念しております。コスモスの花のように、凛として清楚で、存在感のある士会、神奈川県士会ですね。頑張って下さい。」とのことでした。ありがとうございました。

（文責：澤口・松本）

OTのためのIT講座

新連載「OTのためのIT講座」スタート！

（松本編集長）いよいよ始まりました！
　生まれ変わった県士会ニュースでの新連載「OTのためのIT講座」、石川先生、期待してますよ！

（石川講師）　県士会ニュースの誌面を私が埋めるなんて、なんだか不思議な感じがしていますが、士会の皆さんはもっと不思議な感じでしょうね。

　OTとIT（Information Technology 情報技術）、ただ語呂が良くて面白いというだけで決まった企画ですからね。（笑）

　それはともかく（苦笑）、この連載がOTの皆さんの事務仕事、パソコンやインターネット周りの作業効率アップに、少しでもお役に立てれば嬉しいですね。

　具体的にはどういう内容になるんですか？

　ExcelやPowerPointなどのソフト、GoogleやYahoo！などのウェブサービスを便利に使うヒントを分かりやすく、実践的にご紹介できればと思っています。

　最近、やっとmixiの登録をしたばかりの私でも分かりますかね？

　初心者には「ITよろず相談所」だと思ってこの連載を使っていただいて、上級者には「クラウド・コンピューティングへの移行」なども提案していけたらと考えています。
　とはいえ、誌面にも限りがありますからね、「パソコンでこんなこともできるよ」とか「インターネットでこうすると便利だよ」ということをお伝えできればと。

　クラウドなんとかはさっぱり分かりませんけど、職場でExcelとWordは使ってますよ。でも、たぶん機能の半分も使ってないだろうとは感じてますね。

　そうですね、例えばExcelにある「オートフィル」の機能を知っている人と知らない人では、書類作成の効率がぜんぜん違うと思うんですよ。

　なるほど、楽しみにしてます。ところで、石川先生は何のセンセイでしたっけ？

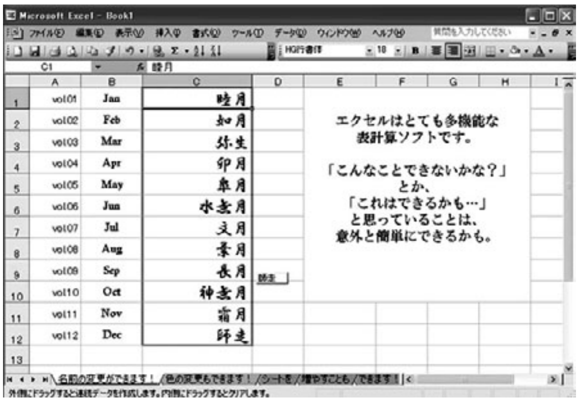
　普段は専門学校などでインターネット関連の科目や情報処理技術者試験の対策講座を担当したり、「ITパスポート試験合格講座」や「基本情報技術者合格講座」などのWebサイトを運営したりしています。

　あぁ、情報学科の先生でしたか。てっきり醸造学科の先生かと思ってましたよ。（笑）

今日のアドバイス

＊**Excelは代表的な表計算ソフトです**

規則的な数字や日付などをマウスだけで簡単に入力できる「オートフィル」や、詳しい設定ができる「検索・置換」の機能を覚えておくだけでも、書類作成の効率が上がります。難しそうだと思う前に、ぜひ試してみましょう！



＊**迷ったら右クリック！**

Excelには非常に多くの機能が備わっています。例えば、シートの数を増やしたり、「Sheet 1」となっている名前を変えたり、色をつけたりもできます。こんなことできたらいいな…と思ったら、その場所でマウスの右ボタンをクリックしてみてください。

ちなみに初心者向けの教室では、“ひとつのセルの中で改行はできないの？”という疑問が多いですね。これはキーボードの[Alt]キーを押しながら改行（[Enter]）すればOKです。

＊さらに基本的なことですが、“連続した複数の箇所を選択する”ときにはキーボードの[Shift]キーを押しながら、“散らばった複数の箇所を選択する”には[Ctrl]キーを押しながらクリックします。このような基本操作はExcelだけでなく、パソコンを操作する他の場面でも応用できます。

＊困ったらなんでも「検索」してみましょう

ご存知の通りGoogleやYahoo！などの検索サイトは、とても便利です。例えば「エクセル　オートフィル」と検索してみると、操作方法を図表も交えて詳しく教えてくれるページがいくつも見つかります。パソコンの操作に限ったことではありませんが、もっと気軽に検索サイトを使ってみることが、ITを身近で便利に使う最初の一歩になると思います。

質問を募集しています！？？？？？？？？？？？？？？？

「OTのためのIT講座」で取り上げてほしい質問を募集しています。
下記のURLから投稿してください。

● **「OTのためのIT講座」質問箱**　http://post.afinax.com/

記事の感想や要望などもお気軽にお送り下されば幸いです。

【著者紹介】

石川 敢也（いしかわ かんや）

東京電子専門学校、東京テクノロジーコミュニケーション専門学校、読売・日本テレビ文化センター他でIT関連の科目を担当。共著作「Excel & Word完全解決！」（宝島社）、「インターネットから子供を守る！」、「初級シスアド対策問題集」（以上、ローカス）など多数。
ISO 27001（ISMS 情報セキュリティ・マネジメント・システム）審査員補。
ホームページ http://www.afinax.com/
横浜市で理学療法士の妻１人と多数の熱帯魚に囲まれて暮らしている1968年生まれのA型。

イラスト・松本

学術部からのお知らせ

●学術誌の発刊、研究助成事業の開始について

学術部担当理事　中西浩司（北里大学東病院）

当士会は全国有数の会員数を誇る、底力のある会であるといえますが、一方で他士会に遅れをとっている面があることも否めません。特に学術誌の発刊が未だ成されていないことについては、私が学術部を担当する以前から一会員として憂慮しておりました。そしてこのたび、一年以上にわたる年月をかけ、学術誌発刊準備担当の東登志夫先生（神奈川県立保健福祉大学）のほか、スタッフの皆様のお力添えのもとに準備を重ね、ようやく神奈川県作業療法士会学術誌「神奈川作業療法研究（仮称）」第１号の発刊一歩手前まで、こぎ着くことができました。

今更口幅ったいようですが、作業療法士の本幹は学術活動であり、学術活動のひとつの表現形として、学術誌はなくてはならないものといえます。そのような学術誌がようやく発刊直前までに至ったということは、理事の皆様そして会員の皆様のご理解、ご協力あってのことであると感謝しております。また雑誌も動植物と同様に、刊行を重ねるごとに育っていくものであると認識しています。これから生まれる本誌は、まだ若い世代のOTにも親しみやすく、気軽に投稿しやすい雑誌となることでしょう。そして論文執筆にはまだ自信はないが、これからトライしていきたいと考える諸君のために、「論文執筆支援制度」を設けることにしました。これは研究・論文執筆の経験豊かなOTの助言、指導を受けることで、まだ経験の浅いOTの成長を助けるための制度です。是非ともご利用ください。

今後、本誌をよい方向に育てていくことができるかどうかは編集に携わる方々だけでなく、会員の皆様のご努力次第であると思います。論文の投稿という形でご協力願えることを切に願っております。

学術部で新たに企画し、今年度よりスタートをする事業は、学術誌発刊だけではありません。当士会独自の研究助成事業も開始されます。しかし既に研究助成を行っている団体は、日本作業療法士協会をはじめとして多数あり、その中で神奈川県作業療法士会が新たに事業を開始する意義がどれ程あるか、と疑問に思われる方も多いことでしょう。

そもそも学術部が当士会で担う役割は、会員の学術活動支援であると考えます。講習会の企画・運営に際しましても、その役割を果たすべく最大限配慮しています。また会員の実態は経験５年未満の若いOTが主であり、それを念頭においた支援を考えねばなりません。つまり、意欲にあふれまさにこれから伸びんとするが、なかなか水や栄養を得る機会が少ないというOTに対し、我々先達に何が可能であるかを考えなくてはならない、ということです。そこで経験の多いOTの手法や考え方を若いOTが吸収、発展する場として、研究助成事業を利用できないか、と思い至りました。

安部剛央先生（衣笠病院）ほか、担当スタッフの皆様にご協力いただき、学術誌同様一年以上にわたり検討を重ねた末、開始する運びとなりました本研究助成事業の最大の特徴は、複数の法人（３法人以上）に所属するOTから成る研究組織を組んでいただくということです。このような組織により研究に取り組んでいただくことで、経験者のOTがもつ知識や技術が、研究の実施を通じて経験の浅いOTに伝わることを期待しています。若いOTの方々の中にはきっと、研究に興味はあるが自分が中心となって行うことには、二の足を踏むという方々がいらっしゃるでしょう。しかしどなたか、身近な先輩の研究を助けるような形で関わるということなら、是非とも参加したいと思われませんか？　また神奈川県下には、盛んに活動されているSIGが多く存在します。そのようなSIGで、本事業への応募をご検討されてはいかがでしょうか？　一つの研究課題に対する助成上限額は20万円と、決して豊かな研究資金とは言えないかも知れませんが、それでもSIGの活動の一環として、ひいては当士会の学術活動を、盛り立てることにつながるのであれば幸いです。

日本作業療法学会の場で、神奈川県作業療法士会の看板を背負って、演題発表してみたいとは思いませんか？　助成金の使途として学会出張旅費や参加費も、認められるように配慮しました。是非とも活用していただければと思います。

当士会学術部は今年度から、講習会開催による従来型の一方向的な学術活動支援だけでなく、学術誌、研究助成を通じたインタラクティブな支援を行うようになります。私自身日々痛感するのですが、経験のあるOTといえど完璧ではあり得ず、経験の少ない分野やあまり熱心に取り組んでこなかった分野があるのは当然です。また経験が浅いといえど、ある分野については深く知っていたり、実直に関わっていたりするOTが沢山いらっしゃることも知っています。今後の学術活動は、そのようなOT間での交流によって、双方が助け合い、高めあうような形で進んでいくべきだと考えています。今回ご紹介させていただいた学術誌、研究助成は、そのような双方向的な活動を通じ、学術交流を援助することが目的である、と理解していただければと思います。

皆さんの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

●「神奈川作業療法研究（仮称）」投稿論文募集のお知らせ

発刊頻度　……………年１回（毎年１月発刊）
募集の内容　…………研究論文、実践報告、総説、短報
投稿資格　……………神奈川県作業療法士正会員（投稿年度までの会費納入済みの方）
査読　…………………１投稿論文に対し、２名の査読者によって行う。
論文執筆支援制度　…研究・論文執筆経験の少ない会員の希望により、テーマの決定から投稿に至るまでの一部または一連の過程に対して、助言・指導を行う。（制度利用年度までの会費納入済みの方）
その他　………………ウェブサイトを参照のこと

●一般社団法人　神奈川県作業療法士会　平成22年度　研究助成事業　研究課題募集のお知らせ

応募資格者　…………神奈川県作業療法士正会員（応募年度までの会費納入済みの方）
研究組織　……………３法人以上の神奈川県作業療法士正会員を含む研究者で構成
研究期間　……………交付決定（平成22年10月中）～平成24年３月31日（約18カ月間）
公募期間　……………平成22年５月１日～平成22年７月31日
課題採択の可否　……平成22年８月末日までに事前評価委員会にて決定
応募・投稿義務　……①神奈川県作業療法学会または日本作業療法学会への応募
②「神奈川作業療法研究（仮称）」または「作業療法」への投稿
研究計画書書式　……ウェブサイトよりダウンロードして使用すること
その他　………………ウェブサイトを参照のこと

「神奈川作業療法研究（仮称）」、研究助成事業に関する詳細及び関連書類は、ウェブサイトにてご確認、必要に応じてダウンロードしてください。

一般社団法人　神奈川県作業療法士会ウェブサイト　http://kana-ot.com/

笑顔

　最近は長女と次女で一緒に遊ぶ機会も増え（その分喧嘩もありますが…）以前より家事が進んだり、と私自身長女に助けられる機会も多くなりました。次女がまだ生後５ヶ月頃、長女は保育園から帰ると決まって不機嫌になり、「服が脱げない！！」としばらくは何に対しても怒るという日々でした。確かに『次女の機嫌が良い時に家事をしたい…』と思ってしまう私。頭ではわかっていても、長女と関わる時間の作り方がわかりませんでした。担任の先生に様子を話すと「下の子に手がかかってしまうのは当たり前のことよ。上の子と共感できる何かをみつけては？」と教えてくれました。新たに時間を作ることは難しいため、会話を少し意識してみることにしました。ある日長女が、「今日、保育園のおかずを全部食べれてね」と言った時（すごいね～美味しかったんだあ。で終わらず）、「どんなおかずだった？」と、私も給食の献立をチラチラ見ながら、「ブロッコリー出たでしょ？」と聞くと、長女が「そうそう、でもね酸っぱい味であまり好きじゃないけど、体が強くなって風邪をひかないよ！って給食の先生も言ってたから頑張って食べれたよ」と得意そうに話てくれました。会話でも十分共感できるし、長女が答えやすいように時々質問形式にしたり、と以前より『会話』というものを意識したことで話も弾み、お友達のこともよく話してくれるようになりました。そして不機嫌が多かった時期も過ぎ、今では楽しかったこと、友達の失敗談まで話してくれます。

　笑顔が笑顔を生む（人と人が接していく中の笑顔）という一文を文献で読んだことがあります。そして快の笑いは伝染するともありました。長女がよく笑っていると、まだ状況も飲み込めていない次女まで笑う機会が多くなり、その姿を見て私も笑ってしまうこともあります。ついつい長女が頼もしくなった分、私優位な状況を作りだしてしまいますが、まだまだ４歳！！なんですよね。だだをこねてくれるのも今のうち、とちょっとゆとりをもてたらなんて思います。子供達がいつまでも笑顔でいられるよう、まずは私から！と思います。そして職場復帰してからもこの経験を忘れず、患者さんと接していければと思います。

（文責：海出）

パイロット事業のお知らせ

一般社団法人神奈川県作業療法士会　初のパイロット事業が採択

『ALS者のコミュニケーション支援講習会』のお知らせ

　昨年度、日本作業療法士協会（以下「協会」）の事業の一つである「作業療法推進活動パイロット事業助成制度」（以下「パイロット事業」）に一般社団法人神奈川県作業療法士会（以下「神奈川県士会」）がエントリーをした。
　パイロット事業とは、作業療法実践のシステムづくりや地域支援、生活支援に関する実践的取り組み、作業療法の普及・発展、啓発に関する組織的取り組みなどの先駆的な活動に協会が助成をするもので、都道府県士会単位でのエントリーとなっている。
（パイロット事業に関する詳細は、協会資料や平成22年度の神奈川県士会総会議案書附録にて確認いただきたい。）
　平成22年度のパイロット事業にエントリーしたのは東京都作業療法士会、京都府作業療法士会と我が神奈川県士会の３都府県。神奈川県士会では初の試みとなる。
　エントリーテーマは「神奈川県内におけるALS者のコミュニケーション障害に対する、当事者、作業療法士、他の医療・福祉関連職からなる支援体制の整備」である。
　兼ねてより交流のあった日本ALS協会神奈川県支部（以下「ALS神奈川支部」）の会員に対して、神奈川県士会の活動として何か協力ができないか？という想いがきっかけとなり、昨年11月にパイロット事業計画書を協会に提出、12月に修正した事業計画書を再提出して、今年１月に協会から採択をしていただいた、というのがこれまでの経過である。

　ALSは10万人あたり１～1.5人程度といわれている発症率の少ない疾患である。全国のALS罹患数7,993人。神奈川県内だけでも415人。近年、在宅酸素療法が普及し、人工呼吸器による延命が在宅においても可能となったことにより、ALS発症中期以降のコミュニケーションに関わるニーズは当事者、家族ともに高まっていると考えられる。しかし発症率が少ないゆえに、コミュニケーション援助に関する作業療法技術は、一部の専門病院に勤務する作業療法士以外では高まりにくく、まして地域生活を支える作業療法士の技術は高まる機会が少ないといえる。

　神奈川県士会では、平成20年度に「ALS患者へのコミュニケーション援助」講習会を開催、また県内のSIG団体においてもコミュニケーション援助に関する研修会を開催し、県士会員に技術を提供している。一方で、地域リハビリテーションの推進事業の一環としてALS協会神奈川支部との連携を図り、当事者の意見収集、情報交換をしながらALS神奈川支部会員の活動への支援のあり方を検討している。ALS神奈川支部の役員会等の出席やヒヤリング等を通じて確認できたのは、当事者、家族のコミュニケーション援助に関する作業療法士への期待の少なさであった。作業療法を提供する臨床場面で出会う当事者でコミュニケーションに問題を抱えるものは多く、また、進行性疾患のため、現状問題がなくても今後問題が生じる可能性は高く、この問題について相談する窓口も少ないのが現状である。

　このような状況を踏まえて、本事業ではALS当事者とその家族に対して作業療法士がコミュニケーション援助に関わることのできる職種であることを周知するとともに、ALS当事者を支える作業療法士など医療・福祉従事者に対して、具体的なコミュニケーション援助に関する技術を提供することにより、ALSのコミュニケーション障害に対する支援体制を構築することを目的としている。

　具体的には、ALS当事者を支える作業療法士を中心とした医療・福祉従事者を対象として、神奈川県士会専門チームによるALS当事者のコミュニケーション支援（コミュニケーション機器およびスイッチを用いた支援）に関する講習会を開催。講習会は同じ内容のものを県内３ヵ所でおこなう。
　参加資格は当事者とその家族、ALS当事者に関わる作業療法士およびその他の医療・福祉従事者としている。
　講習会終了後も定期的なフォローアップをおこない、本事業のテーマにもあるように支援体制を整備（図１）することを最終目標としている。

　この取り組みが神奈川県士会発となり全国で取り組まれることを期待して、事業の経過や結果を報告していきたい。
より多くの方々に本事業に参加いただけることを切に願う。
（講習会開催要項は封入チラシや神奈川県士会ウェブサイトに掲載）

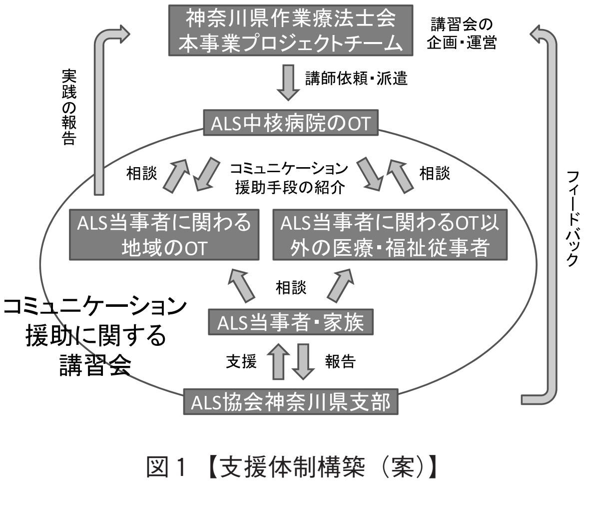


図１【支援体制構築（案）】

各部からの報告

教育部

○連載！「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

今年度最初の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」です。

今春作業療法士国家試験に合格し、就職された方、おめでとうございます。迎えた側の方も業務拡大や充実に向けて新たに動き始めたところではないかと思います。

さて、このコーナーは、県士会教育部関連の情報をご案内していきます。教育部はOT協会の生涯教育制度に関する事業を主に展開しています。その情報はこの県士会ニュースと県士会ウェブサイトを通じて発信されますので、しっかりアンテナを張っておいてください。

今号では、今年度の生涯教育制度関連の研修会開催情報をご案内いたします。詳細は今後ご案内します。

1．**現職者共通研修**（全10テーマ）：９月以降開催（７月号県士会ニュースにてご案内予定）
　＊生涯教育制度の必須基礎研修です。新人教育や県士会デビューにお使いください。

2．**現職者選択研修**（全４領域中２領域開催）：下半期に身体障害と老年期障害の２領域開催予定
　＊領域別（身体・老年期・精神・発達の各障害領域）の生涯教育制度必須基礎研修。
　＊神奈川県士会では、一年間で必須基礎研修が修了できるよう毎年研修会を開催しています。

3．**事例報告登録制度研修会**：事例報告登録は認定作業療法士申請に必須です。OT協会学術部のご協力により開催予定（おそらく下半期開催）

その他、研修会等参加証明書、県士会の役員や部員、委員などの県士会裁量ポイントのポイント申請は随時受け付け中です。また基礎研修や認定作業療法士の更新にもぜひご挑戦ください。ご不明の場合にはご連絡ください。県士会ウェブサイトからもご質問ができます。制度や教育部へのご意見もお待ちしています。

教育部　奥原孝幸（昭和大学）
045−985−6500㈹，kyoiku@kana-ot.com

ウェブサイト管理委員会

○ウェブサイト管理委員会公式Twitterはじめました

今、ネット界でブームとなっているTwitter。ウェブサイト管理委員会である以上、ブームとなっているIT技術を取り入れないわけにはいきません。その可能性を見出すべく試験的ではありますが、ウェブサイト管理委員会公式のTwitter（http://twitter.com/kaotwebkan）をはじめました。

Twitterとは、ひと言で言うならば１記事140文字に上限が設けられたブログのこと。ブログと比べ他の人とネットコミュニケーションを円滑に行うための仕組みが多く導入されています。ウェブ管では、県士会サイト＆ブログの更新情報、リハ関連のニュース、委員のつぶやき、などから展開する予定です。

アカウントをすでに持っている人はぜひ“Follow me and I follow you back”、持っていないけど興味ある人はぜひ“Join the conversation！”

URL : http://kana-ot.com/

（文責：ウェブサイト管理委員会　作田）

平成22年３月アクセスランキング
１位　講習会・研修会　4196件
２位　求人情報掲載板　3928件
３位　再学習・筋触診：記事ページ　3912件
４位　作業療法Tips：分類ページ　1361件
５位　作業療法Tips：記事ページ　1348件

平成22年３月県士会ブログランキング
１位　プレミアム福利部　458件
２位　鍼灸（中国）十作業療法（日本）＝？？？ 367件
３位　ウェブ管的知恵袋　265件

平成22年３月
更新件数：20件　訪問者延べ数：8834人
Kanaからの手紙発行回数：７回
１月末のトップページカウンタ数：480263

理事会報告

平成21年度　第６回　一般社団法人　神奈川県作業療法士会理事会　抄録

日時：平成22年３月18日（木曜日）19:00～20：20　　場　所：神奈川県作業療法士会事務所
出席理事：渡邉、佐藤、錠内、浅井、奥原、木村、作田、鈴木、冨山、中西、野々垣、原、澤口
委任理事：机、野本、山路　出席監事：長谷川　委任監事：清宮　出席事務局員：名古屋、芳賀　　その他：なし

＜各部からの報告・検討事項＞

●事務局（澤口事務局長）
1）会員動向：平成21年12／31現在　会員数1,477名
2）総会当日のタイムスケジュールを確認する。
3）渉外活動神奈川県医療専門職連合会総会：３／17⇒理事出席確認
神奈川県介護支援専門員理事会：３／24⇒錠内副会長出席
神奈川県リハビリテーション協議会：3／24⇒錠内副会長出席
4）他団体からの要請
・神奈川県社会福祉協議会より研修情報の収集および提供について依頼、先方のHPにて掲載⇒三役承認済み
・平成21年度神奈川県エイズ対策推進協議会総会：３／23
場所：神奈川県庁本庁舎　３階大会議場⇒長谷川監事出席
・平成22年度糖尿病週間行事実行委員会（小田原地区）委員の継続依頼⇒承認、小澤病院（野津、石井）

●学術部（中西理事）
1）研修会終了：分野別（身体分野）（１／30）「はじめての嚥下障害の評価と治療」講師：福田倫也（北里大学東病院リハ科医師）、安田菜穂（北里大学東病院ST）；受講者52名（会員47名、他県士会５名）　（精神分野）（１／30）「精神科における実践報告」講師：佐藤拓也（武田病院OT）、川口敬之（横浜舞岡病院OT）、望永和美（ゆりあすOT）；受講者30名（会員30名）
2）神奈川リハビリテーション研究会：平成21年度第２回役員会に出席
岡本連三先生に代わり、新会長に伊藤利之先生（横浜市総合リハビリテーションセンター）が就任。次回は９・10月付近に横浜市大病院にて開催予定

●教育部（奥原理事）
1）研修会終了：「現職者選択研修（発達障害）」（１／30）講師：①発達障害領域の基礎知識；長谷龍太郎（神奈川県立保健福祉大学）②発達障害領域の作業療法の実際（１）；鴨下賢一（静岡県立こども病院）③発達障害領域の作業療法の実際（２）；鴨下賢一（静岡県立こども病院）④発達障害領域の作業療法の今後の課題と展望；笹田　哲（神奈川県立保健福祉大学）受講者：67名（会員39名・他県県士会22名・部員６名）「現職者共通研修（事例検討・事例報告）」（２／20、21）；受講者107名
2）研修会参加費について：県士会財務状況に応じ、県士会主催の参加費再検討の提案があった。参加事務手続きや研修会の企画会議、また当日の会場運営、会場費等々を案分し、これまでの参加費（概ね90分1,000円）は適当といえた。追記：講師謝金についてはこれまでOT協会規定にて運用してきたが、神奈川県士会独自のこれまではOT協会のものを適宜運用してきたが、神奈川県士会独自で規定を作成してはどうかとなった⇒規約委員会

●広報部（澤口事務局長代読）
・県士会ニュース143号（平成22年５月発行）から、ニュースのレイアウト・印刷・発送作業を㈱第一印刷に一括依頼する。それに伴い、紙面に掲載する「お知らせ」と封入チラシの依頼方法が変更になる。

●福利部（冨山理事）
・「第１回OT職場見学会」を開催する。周知願いたい。
対象：主に新人会員や、一人職場の会員
日時：平成22年５月21日㈮　19：00～20：00
場所：日本鋼管病院
講師：錠内広之先生
内容：OT室の見学、錠内先生による説明、質問・悩み相談コーナー、終了後懇親会予定→HPでも広報する。

●地域リハビリテーション部（木村理事）
1）研修会終了：「第17回PTOT地域ケアネットワーク合同研究会」（２／14）
場所：横浜リハビリテーション専門学校、内容：「PTOTの可能性～広がる職域～」講師：森本　榮氏（日本PT協会理事）、船谷俊彰（松下電工エイジフリーショップス株式会社OT）他１名、受講者103名（会員37名、非会員６名、PT60名）
2）OT協会「パイロット事業」について（続報）
課題：「神奈川におけるALS者のコミュニケーション障害に対する当事者、作業療法士、他の医療・福祉関連職からなる支援体制整備」⇒OT協会にて採択。３月中に予算が振り込まれる。４月中にプロジェクトチーム（学術部・広報部・福祉用具委員会からも１名ずつ）の第１回会議を開催予定。
3）講習会開催予定：７／17㈯、８／21㈯、９／４㈯
4）OTPT（ST）訪問リハビリテーション研修会（仮）の開催について：県PT士会の露木理事より上記研修会開催の協力依頼あり。
来年度、訪問OT研修会を開催予定のため、PTとの合同開催を今後協議していく。
5）求人情報のまとめ作業について：福利部　冨山理事と協議中
6）地域フォーラムへのOTブース設置の手伝い
7）OT協会主催「自立支援に向けた“作業”の捉え方とその評価・支援技術研修会」へ参加。
8）来年度活動方針の具体化
地域における作業療法の普及・推進に関すること⇒三回の研修会を企画⇒地域リハ従事者および需要の把握。▽地域リハビリテーションにおける他職種・機関・組織との連携に関すること⇒PT士会と合同で研修会を企画⇒労働局、神奈川県障害者職業センターとの職リハへの取り組み（パンフレット作成などの企画）▽地域で暮らす障害者・家族、支援者等との連携に関すること⇒会員数100名以上で、定期的な活動（交流会以外）を実施して団体の活動に参加、活動の広報。※試験的取り組みを始めてばかりなので対象とする会の規定は今後検討する。▽その他地域リハビリテーションに関すること⇒パイロット事業の講習会の開催…５月に総会があるためその際に宣伝する。

●ウェブサイト管理委員会（作田理事）
1）県士会サイトの管理とアクセス件数報告
研修会、講習会の依頼件数がかなり増えている。
2）修正予算執行報告：新PCを購入

●企画調整委員会（浅井理事）
・年度末までの活動状況を監査日までに報告すること。⇒近日中に理事MLでフォーマットを送付する

●財務部（野々垣理事）
1）会員動向：1,472名（３／15現在）、会費納入率：83.６％
2）今年度決算報告（２月末まで）
選挙管理委員会の委託費項目なく補正予算を組みたい⇒承認
第13回県学会会費収入⇒確認済み
3）次年度予算案関連
・県学会積立金について：（意見）次回は北里大学で行う。しかし年々規模が拡大中、リハ養成校をお借りした場合、若干会場費を抑えられているが、将来は学校外で行う場合も想定し上積みが必要か？⇒三役会で検討
・予算を各部へ入金する時期：現行の前後期の２期から４半期毎に変更も検討中
4）監事：監査必要書類は事務局に４／５必着（送料は着払い）。
３／31の時点の通帳記載をすること

※議事録の詳細は県士会ウェブサイトをぜひご覧下さい（文責：澤口）

研修会

講習会のお知らせ
『学校教育と作業療法』

講　師：加藤　寿宏　先生
（京都大学医学部保健学科　作業療法士）

　京都府では、講師の加藤先生が中心となり作業療法士「チーム」が学校教育・特別支援教育に積極的に参加協力しています。先生の豊富な経験をもとに、学校教育現場に作業療法士がどう関わっていけるのか、どのように子どもたちを支援できるのか、ヒントをいただきたいと思います。

日　程：2010年８月８日㈰９時～16時
定　員：40名（先着順・定員になりしだい締切）
会　場：横浜市総合リハビリテーションセンター
対　象：職種を問わず参加可能
参加費：5,000円

申し込み方法：
以下のアドレスへ、題名を「加藤先生講習会参加希望」とし、下記内容を記入してお申し込み下さい。
①氏名・②職種・③所属名

申し込み・お問い合わせ先：
メールアドレス　matsumoto.m@yokohama-rf.jp
横浜市総合リハビリテーションセンター　松本政悦

研修会

第32回日本リハビリテーション工学協会
車いすSIG講習会 in 仙台

日　程：2010年８月24日㈫～25日㈬
主　催：日本リハビリテーション工学協会　車いすSIG
共　催：一般社団法人日本車いすシーティング協会
会　場：フォレスト仙台
　〒981-0933　仙台市青葉区柏木１-２-45
　http://www.forestsendai.jp/
定　員：下記講習内容参照（先着順）
参加費：12,000円・14,000円・16,000円・20,000円
　（加盟団体等により異なります）

内　容（コース選択制）
■　アクティブ・バランス・シーティング（ABS）（定員30名）
■　高齢者・片まひ者の車いす（定員40名）
■　シーティングと走行性能の理論と実際（定員30名）
　※社団法人日本作業療法士協会「生涯教育制度」基礎ポイント対象研修会（予定）
申込締切：７月23日㈮（定員になり次第受付を終了させていただきます）

※講習会情報詳細は下記ホームページに掲載予定（６月中旬）です。申込書をプリントアウトの上FAXにてお申し込みください。

車いすSIG講習会事務局
横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部研究開発課内　担当　深野栄子
TEL．045-473-0666　FAX．045-473-0836
http://www.wheelchair-sig.jp

研修会

臨床実習指導者のための
教育ワークショップ

日　時：平成22年５月29日㈯
　９：00～17：30（受付：８：45～）
会　場：昭和大学保健医療学部（長津田キャンパス）
内　容：臨床実習指導者として指導者に必要な教育手法を体得するために、参加者主体で課題を達成していくセミナーです。ワークショップを通じて、臨床指導という形で求められる教育について体系立てて指導していくことの必要性、有用性を体験していただけます。（※臨床実習指導者の未経験の方も参加可能です。）
定　員：20名
参加費：会員1000円　非会員1500円
　＊生涯教育制度・基礎コース１ポイントの付与
申し込み方法：以下の内容をメールに記入し件名「セミナー参加希望」とし以下のアドレスに送信してください。１．参加者氏名　２．所属　３．返信先アドレス　４．実習指導者の経験の有無

<問い合わせ先>
昭和大学卒後教育セミナー　事務局
横浜市緑区十日市場町　1865
昭和大学保健医療学部作業療法学科内
E-mail：otd@nr.showa-u.ac.jp

研修会

2010年夏期教育研修講座

４月１日より新たに保険収載される各検査法の講座
Aコース「失語症の診断とリハビリ：基礎と臨床」
　日　程：2010年７月17日㈯・18日㈰
Bコース「認知機能障害の診断とリハビリ：基礎と臨床」
　日　程：2010年７月19日（月・祝）
　会　場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）
　受講費：Aコース22,000円（会員14,000円）
　　Bコース12,000円（会員８,000円）
　受　付：2010年５月17日㈪開始予定

第34回学術総会サテライト・セミナー

テーマ：「記憶障害の症候学」
日　程：2010年11月20日㈯
会　場：大宮ソニックシティ（さいたま市）
受　付：2010年９月１日　開始予定

お問合せ・申し込み：
日本高次脳機能障害学会事務局
Eメール　jsa1977@sepia.ocn.ne.jp
ホームページhttp://www.higherbrain.gr.jp/

求人

作業療法士募集

募集人員　１名
経験　２年以上の方
年齢等　24才～45才位迄
勤務時間　９時00分～18時00分迄
　土曜日９時00分～18時00分迄
残業　月平均 ５時間
モデル年収　10年：年収400万円位
中途入職時の初回賞与：
夏季賞与は前年12月１日に在籍している場合が規定の対象。途中入社の場合は別途規定。
着任時期　早急
保険等の加入　健康保険 厚生年金 雇用保険 労災保険
休暇　有給休暇（初年度10日／次年度11日）
　年末年始　12月30日～１月４日
　夏期休暇３日（有休に含まず）
昇給　年１回3000円～10、000円
退職金　勤続　３年目より
問い合せ先　下記TELかe-mail

医療法人社団　鴻鵠会
睦町クリニック
横浜市南区睦町１-８-３
TEL：045-743-6588
e-mail：kato@clinic.or.jp

郵送先が相模原市の方

このたびの政令指定都市化に伴い住所が変更になりました。
神奈川県作業療法士会よりの郵便物が相模原市になっている方はお手数ですがＦＡＸかメールにて事務局に新住所のご連絡を
お願いたします。

FAX：045-663-5997
e-mall：ken-ot@kana-ot.com

求人広告募集規定

神奈川県作業療法士会ニュースは、誌面への広告を以下の通り募集しています。

掲載料： １ページサイズ　24,000円
　１／２サイズ　12,000円
　１／４サイズ　6,000円
ニュースの発行： 年６回　奇数月末に神奈川県在住の作業療法士約1500名へ郵送
募集締め切り： 年６回　偶数月10日（次の月末に発行）

募集から掲載までの流れ

① 事務局へ求人広告の掲載を希望する旨ご連絡下さい
② 事務局より広告のひな型（ｗｏｒｄファイル）をメール添付にて送付いたします
③ ひな型に沿って広告文書を作成し、事務局にメール添付にて返信してください
④ ニュース誌面が完成次第、広告のページ（ＰＤＦファイル）をメールに添付して送付いたします
⑤ 修正点がある場合、直ちに事務局までご連絡ください
⑥ ニュース発行後に、事務局が指定する銀行口座に掲載料をお振り込みください

応募先：神奈川県作業療法士会事務局
〒231-0011　横浜市中区太田町４-45第一国際ビル301号
TEL/FAX:045-663-5997　月火水木金　10：00～16：00
メールアドレス：jimu@kana-ot.com

神奈川県障害者就労相談センター

横浜市中区寿町１－４　かながわ労働プラザ５F
（JR根岸線石川町駅北口より徒歩３分）
電話：045－633－6110（代表）
URL：http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/06/1422/shoshu.html
相談受付：月～金曜日（祝日を除く）８時30分～17時15分まで

　障害を持った方が就労を検討するにもどんな職種が良いのか、どれくらいの能力があるのか等、援助するOTの立場として悩んだことはありませんか。そんな悩みに応えて頂ける県の施設があることをご存知でしょうか。先日、横浜にある神奈川県障害者就労相談センターを訪れました。ここでは就労を希望する障害のある方（障害の種類、障害者手帳の有無は問いません）に面接や職業能力評価を行って状況を把握し、求職活動から職場定着まで一貫した就労支援を行っています。中でも職業能力評価では仕事の実際場面を想定したワークサンプルが38種類もあります。

ベルトコンベアもあります

　ワークサンプルは様々な職種に対応されています。パソコン作業はもちろん、見本に合わせた箱作り、組み立て、シール貼りから商品のピッキング活動、そしてダンボールの組み立てや野菜の袋詰め、牛乳配達といった実際に仕事内容を想定した評価もあります。取材当日は５名の方がベルトコンベアを使用して流れ作業を行い、作業の早さや正確性、協調性などを評価しておりました。

就労後の支援も行っています

　職業能力評価をする中で体験される方自身が活動の向き、不向きを理解したり、作業が楽しいと考えるきっかけになることもあるそうです。このような評価を踏まえて支援計画を立案し、事業所内での実習や就労前支援を行って一般就労等に結び付けています。平成21年度では相談があったうち401人に対して個別就労支援を行い、78人の方が一般就労に結びついた実績があります。就労後も職場定着支援として事業主に助言等サポートを行っており、フォロー体勢も整っています。実際に仕事で困っていることをSSTで実施するプログラムは人気があるとのことです。
　取材で対応して頂いた就労支援課の永田さんは、能力評価をするにあたり「継続して職場に通えるか、朝から夕方まで働けるかといったことは各施設のスタッフの情報が重要です。情報の共有ができるといいですね」と話されました。やはり就労支援をする上で連携が欠かせないと改めて実感した次第です。是非ともこのような施設を利用してみてはいかがでしょうか。相談、評価にかかる費用は無料です。詳しくはホームページをご覧下さい。（文責：千葉）

一般社団法人　神奈川県作業療法士会ニュース　＜143号＞2010年5月発行（年6回発行）
発行責任者　渡邊愼一
編集責任者　野本義則
編集担当　松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・馬場順子・中村美穂・矢野竜也
印刷　発送　第一資料印刷株式会社
事　務　局　〒231-0011　横浜市中区太田町4-45第一国際ビル301号　TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金　10：00～16：00　メールアドレス：jimu@kana-ot.com
一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト http://kana-ot.com/ ➡ 作業療法　神奈川　検索